令和３年度 日本遺産「里沼(SATO-NUMA)」構成文化財追加認定

日本遺産 JAPAN HERITAGE

㊷織姫神社と館林紬

（おりひめじんじゃ）（たてばやしつむぎ）

館林の里沼

【ストーリーの中の位置づけ】〔未指定・(建造物・民俗)〕**もてなし文化エリア**

館林地域は江戸時代から綿花栽培が盛んで、農家の副業として機織が行われ、城下町には多くの綿屋商人がいた。
明治時代以降、城下町に織物組合が結成されて町内に**織姫神社**を祀るとともに、「里沼」のもてなし文化を支えた様々な織物が生まれ、なかでも**「館林紬」**は今も続く伝統工芸品となった。

織姫神社

織物産業の振興・発展を祈念し建てられた神社。
古くは織物会館の一角(現館林税務署職員駐車場)にあった。平成元年(1989)、長良神社に合祀され現在地に鎮座する。

織物会館(館林織物連合協同組合)

昭和３年(1928)建設。昭和５年(1930)、館林織物同業組合結成後、組合の事務所として使用したため、織物会館と呼ばれるようになった。一時期本館・新館があった。

館林紬

真綿から糸を紡いで織られたもの。
館林地域は江戸時代から盛んな綿花栽培で農家の副業(農閑期)として栄えた。

館林紬の特徴

時代の変化に合わせて受け継がれ、和・洋問わず高い実用性がある。
現在でも館林市が誇る伝統工芸品(もてなしの品)となっている。

山岸織物

昭和25年(1895)創業。現当主で４代目。
現当主は、館林織物連合協同組合の理事長も務める。
夫婦経営(夫:製造、妻:デザイン・渉外・WS)。
現在、市内で館林紬を取扱う唯一の事業者。

もてなしの品

小物から着物まで幅広く取扱う。
名刺入れ・ティッシュケース・ネックレス・ご朱印ケース
ヌマノマスク(マスクケース)・バック・シャツ等多数